

21 「深い学び」を視点とした授業改善の実践

こんな実践

「そっくりに描けるかどうか」に捉われ、思いを表現することに意識が及びにくい生徒の実態から、抽象絵画による心象表現を題材としました。計画なく単純な線を描くことで生まれた画面から受けるイメージをもとに、対話を重ねながら主題を深め、主題に応じた表現の工夫につなげた実践です。

実践学校 M 中学校

実践学年 3 学年

実践時期 7 月初旬から

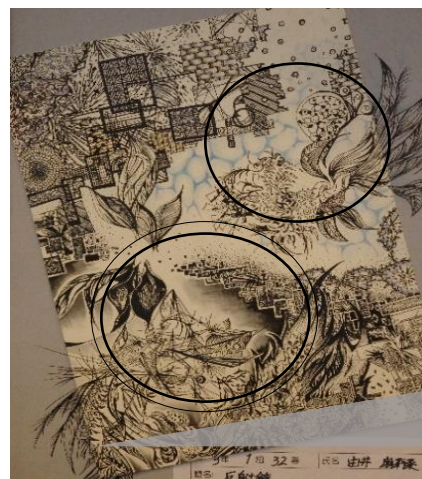
題材名 「ペン画 ゼンタングルからの発想」

学習指導要領との関連：A 表現ア(ア)

第1時は、心地よい方向に自由な線を描き進め、他者と感想を伝え合うことを通して、画面から受けるイメージについて考えました。授業終盤に行った相互鑑賞で、その時間に描いた○内の表現について行われた対話は①の通りです。

第3時は、主題や表現について考えたり友と語り合ったりすることを通して主題を深め表現の工夫につなげました。

前時までに描いた○と◎部分とについて行われた対話は②のとおりです。



A 生 作品名『反射鏡』

①
 B 生 きれいな。花？
 A 生 曲線のところが揺れてる感じ
 C 生 するする。風で揺れてるの？
 A 生 風っていうより水の中かな。
 B 生 水？花じゃないの？
 A 生 なんか金魚っぽい。
 B 生 なんかわかる。優雅に？
 A 生 うん。なんか涼しげ。
 C 生 涼しげ？
 A 生 白いところが多いからかな。

②
 C 生 なんか、形似てる。
 D 生 形は似てるけど反対な感じ。
 A 生 下、とげとげしてるよね。
 B 生 形似てるけど上は曲線で優しい。
 C 生 上がAさん？
 A 生 下の方の気持ちが変わる気がする。
 B 生 どんな？
 A 生 うらやましいより、そうなりたいけどなれないみたいなの。
 B 生 真似してるみたいなの？
 A 生 そうそう。



ここがポイント！

・主題を深めていくためには、他者との対話を意図的に設定することが有効です。例えば、制作途中に中間鑑賞の時間を設定したり、お互いに顔が見える形で制作をする環境をつくったりすることで、自然発生的な相互鑑賞が行われるような場の設定を工夫することなどが考えられます。

学習カードより

A 生作『反射鏡』：主題設定までの様子及び制作後の感想

時間	制作メモ（学習カード）より
1	金魚がいる。涼しい感じ。自分が水の中にいるみたい。
2	形を似せて描いてみた。前のは曲線だったから、今度は直線で描いてみた。形は似てるけどイメージは違う。
3	<中間鑑賞後>左下のが私のもっている闇。下のは上のをまねしようとしているけどうまくいかなくて形がない。自分の中で「その人みたいになりたい」と思ってまねてみても、本当の心から離れられなく自分自身にウソをついている自分。<制作後>直線と曲線とを明暗をうまく使い分けたい。鏡の所（右下から中央）は鋭く見せるように。鏡に写って入るところは黒く。
4-8	略
9	<制作終了後の感想>人のまねばかりの自分をイメージして描きました。なので、まねをする＝鏡として真ん中に鏡をイメージした四角をたくさん描きました。下の魚は、まねしきれず崩れていく私。上の魚は、私がまねしたい人。上の魚はきれいなところだけを見ているので、黒をできるだけなくして透明感を出したくて色鉛筆で水色にしました。下は自分の心の中なので、悪いことも考えてしまうので黒を多くしてみました。はじめはどす黒い作品ができるかと思いましたが、かなり白いところがありびっくりしました。人のまねをしているつもりはありませんでしたが、まねして苦しくなっている面もあるのかなと思いました。無理してまねせず、いつでも自分らしくいたいと思いました。

第3時の中間鑑賞で主題が設定された後も、他者との対話を重ねることによって主題はどんどん深まっていきました。また、「どんな造形要素からどんなイメージを受けるか」という視点を与えることで、主題を表現するための表現の工夫につながっていく様子もわかります。

**ここがポイント！**

- ・制作後に振り返りの場を位置付けることは、制作時に生まれた気づきを基にした自己内対話を活性化させ、主題を深めるとともに、表現の工夫にもつながっていきます。

まとめ

- ・抽象的な表現から受けるイメージは、見る人や、見る時の心の状態によってそれぞれです。造形要素を根拠としながら、お互いに受けたイメージについて対話することや振り返りの場を位置付けることは、対象を造形的な視点で捉え、自分もつイメージや価値をつくり出す資質・能力の育成につながっていきます。